

第 1 学年 A 組 英語科学習指導案

場所 1 年 A 組教室
 日時 平成 17 年 10 月 31 日
 校時 第 5 校時 (13:35-14:25)
 指導者 松本 光正 

1. 単元名 Unit 7 「アメリカの学校から」 (New Horizon English Course book 1)

2. 単元について

(1) 生徒観

1 年 A 組は全体的に明るく元気で素直な生徒が多い。授業に際しても活発で反応も良い。学力的には若干低い面が懸念されるが、英語に対する興味関心は学年全体の中でもある方である。学力不振者が男子で数名いる。英語に限らず授業道具を出すところからの指導になるが、粘り強く指導していきたい。また、発話行為やコミュニケーション活動になると消極的になる生徒が数名いる。「英語使用の重要性」を認識させるための努力を工夫していく所存である。

(2) 題材観

本課では「アメリカの学校」という題材を通して異文化理解を体験させたい。世界の諸学校の制度や内容の違いを通して自分の学校の良いところに基づいてもらいたい。また、「世界の時間・天気」などを通して生徒の世界観を広げていきたい。実際に海外の諸学校とメール交流したり、自校の情報を海外に発信したりするところまでできれば一層生徒の世界観が広がる。校外メール交流等、本校諸事情により現段階では難しいが環境が整い次第実施する所存である。

言語材料：What time is it? / Who is...? 時間の受け答えについては「時差表」をプリントし、日本と諸外国との時差を考えた時間への問答でコミュニケーション活動したい。また、Who の導入としてはあくまで「人物説明」として扱いたい。自分の感想をつけて「人物を説明」する英語を発話させたい。

(3) 指導観

本課では上述した言語材料が焦点化されて学習されるように指導していき。What time is it? については日本時間との時差で世界の時間を知るように工夫する。また、Who...? については、あくまで名前が分かった上での「人物説明」で扱いたい。よって、三文程度の英語で簡単な内容を英語で発話するようなコミュニケーション活動も取り入れていきたい。英語科の基礎基本として、語彙指導並びに音読指導に力を入れることとし、できる限り毎回の授業で語彙・音読指導をしていく。

3. 学校研究課題との関わり (「3 つの達成目標」に絡めた「確かな学力の向上を目指す指導と評価の研究」)

- (1) 英単語・英文が発音・音読 (読める) できるようにすること
- (2) 基本英単語が書けるようにすること
- (3) 英語学習とコミュニケーションに対する関心意欲態度の育成を図ること

上記 (1) ~ (3) を努力目標に、それぞれの評価法を工夫しながら学校研究課題の実現を目指す。

4. 指導計画と評価計画 (本時は第 3 時)

時	達成目標	観点別評価・中心技能	評価規準・基準
1	・「What time is it?」の理解と運用、受け答えができ / 世界の時差を知る	・理解の能力・表現の能力・言語文化の知識理解、Reading	・ワークの基礎問題が時間内にできる ・教師の時間についての発問に答える
2	・教科書 PP. 58-59 の語彙チェックと音読チェック	・理解の能力・言語文化の知識理解、Writing、Reading	・Reading チェックカードで「Yes」に○がつく、Vocabulary テストで 8 割以上
3	・「Who...?」の理解と運用 Who を使って人物説明できる ・教科書 PP60-61 の語彙チェック	・理解の能力・表現の能力・言語文化の知識理解、Writing、Speaking	・Who...? を使ったインタビューゲームでサインが 5 人以上=A ・Vocabulary テストで 8 割以上
4	・教科書 PP. 62-63 の語彙チェック ・教科書 PP. 62-63 の音読チェック ・教科書 Q&A / TorF テスト	・言語文化の知識理解、Writing ・理解の能力・表現の能力 Reading ・理解の能力	・Reading チェックカードで「Yes」に○がつく、Vocabulary テストで 8 割以上 ・TorF テストで全問正解=A、Q&A に挙手をして答えることができる

5. 本時の指導目標

- ① Who...?を使ったインタビューゲームを通して「人物説明」の三行英文が答えられること
- ② PP.60-61の重要語彙を8割以上覚えられること

<その他下位目標>

- ・英語のゲームやコミュニケーション活動に積極的に参加すること
- ・自分の書いた英文が意味を持って相手に伝達されること

6. 本時の学習

	項目	学習活動・学習内容	指導・評価の留意点	補助教材
10分	導入 及び Warming -Up	<ul style="list-style-type: none"> ・単語ゲーム ・ビンゴ 	<ul style="list-style-type: none"> ・指示に従って単語ゲームをやろうとする ・英語をしっかりと聞こうとする <L>関心意欲態度、観察	ワークシート1
10分	展開1 Who...? の導入	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の説明を聞き、Whoの使い方を理解する、また簡単な質問に答えようとする 	<R>関心意欲態度、理解、表現の能力（観察法） <ul style="list-style-type: none"> ・声を出して発音させること 	OHP
15分	展開2 Who...? を使った コミュニケーション活動 展開3 発表活動 と感想発表	<ul style="list-style-type: none"> ・Who...?の例題を説明し、受け答えのルールを説明する。また、一行英作文で簡単な自分の感想を付け加える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>Who is Ayumi Hamasaki? She is a singer. She is from Osaka.. She is young, cute, pretty, etc.</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・決められた時間の中で、8人の人物について友達等にWho...?の英文を質問する。また、答えるにあたっては、3行英文で「人物説明」になっているかをポイントとする。しっかりと自分の感想も付け加えられた友達にはサインをしてあげることとする。5人以上サインが集められた生徒は教師のところに行って確認してもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Who...?が理解されているか確認すること、また英作文が正しく作成されるか留意する。また、簡単な形容詞をできるだけ多く生徒から出させる。 ・積極的に友達等にインタビューしてWho..?の文を質問応答する。 ・5人分のサインを集めるように全力で努力しているか <W>関心意欲態度、分析 <W>関心意欲態度、理解、表現の能力、観察法 <L>関心意欲態度、理解、観察法	ワークシート2
12分	展開3 覚えたい 語句の暗記	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書新出単語並びに本文の重要語句を10個精選し、例文を添えながら提示する ・発音練習並びに意味の確認 ・精選10wordsを繰り返し書いて時間内で練習する ・精選10wordsをテスト形式でチェックする 八割以上の合格を支持する 10words:{ look, choose, question, answer, OK, who, old, Welcome to..., baseball player, singer }	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな声で発音練習する ・重要語句の意味を確認する ・単語練習でそれぞれ5回以上ずつ練習できるように努力する ・単語テストで8割以上の全員合格を目指す <S/W>表現の能力、理解の能力、分析・観察法	ワークシート3 単語チェックカード
3分	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の内容を自己評価する ・次時、家庭学習（宿題）の指示 		(自己評価カード)

備考：男子14名、女子20名。計34名。

研究授業反省会

次第：

1. 授業研究会 13:35～14:25
 2. 研究協議 14:35～
- 於) 菅谷中 校長室

研究協議内容

校長より
授業者より
協議
指導講評

研究協議並びに指導講評

- ① 「3つの達成目標」との絡み、または重点目標
英単語・英文が発音・音読（読める）できるようにすること、基本英単語が書けるようにすること、英語学習とコミュニケーションに対する関心意欲態度の育成を図ること。
- ② 授業者の反省及び指導助言内容
授業者：英語嫌いをなくすことが第一義的要素、そのため、ゲーム・歌を取り入れて授業を活性化させている。時間をオーバーしてしまった。言語活動からコミュニケーション活動の説明のところが無駄があった。自己表現活動として3行の英作文を取り入れた。坂本先生：時間配分を考えるべき。話す内容を精選すべき。導入の工夫を吟味する。コミュニケーション活動のワークシートにしっかりと記す欄、サインする欄を設けておくべき。ゲームは短い方がウォームアップになる。指導案の書き方はこれで良い。本時の目標についてこれで良いか吟味すべき。異文化理解を年間指導案に盛り込んでおけば、今日のビンゴも批判されない（長すぎる）。
- ③ 参観者の感想他
ビンゴゲームは必要か。次の展開に役立つ導入をする。子供の活動を多くすべき。何が課題なのかが説明できるように。とにかく生徒は楽しそうに授業に取り組んでいた。生徒の興味関心意欲を喚起する教材・教具の準備が良かった。生徒が意欲的に発言できるようなゲームの工夫ができていてよかった。